

緑区鳴子学区

災害時避難行動マップ

～死者ゼロ・火災ゼロ・逃げ遅れゼロを目指して～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、鳴子学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。避難行動マップをもとに、“いざ”という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

指定緊急避難場所			
・洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、目前に迫った危険から命を守るために設置された場所です。			
災害種別	洪水・内水氾濫	土砂災害	地震の揺れ
指定緊急避難場所	○	○	×
鳴子小学校	○	○	グラウンド ×
鳴子台中学校	○	○	グラウンド ×
鳴子コミュニティセンター	○	○	屋外 屋外
鳴子中央公園	-	-	○ ○

【役に立つ場所】

指定緊急避難場所
指定避難所
地下式給水栓
仮設トイレ設置場所
AED設置箇所

【各自主防災会の一時集合場所】

一時集合場所は、自主防災組織で行う安否確認や初期消火、負傷者の救助などの自主防災活動の拠点です。大規模な地震が発生した場合、まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して“地域の助け合い”的活動に参加しましょう。避難が必要な場合には、広い道路など安全な経路で指定避難所に向かいましょう。

番号	一時集合場所	自主防災会名	避難所	一時集合場所	自主防災会名	避難所
①	鳴子団地72棟西公園	鳴子団地第7	鳴子小	⑧ 相川第一公園	相川自治会	
②	鳴子中央公園	ライオンズ鳴子		⑨ 鳴子台中学校	鳴子町3丁目	
③	鳴子小学校	プロミスト鳴子		⑩ マックスバリュ駐車場	鳴子町4丁目	
④	鳴子長根公園	新鳴子町内会		⑪ メガネアベール駐車場	カンテ3・4	
⑤	アーバンラフレ4棟前広場	アーバンラフレ鳴子第1		⑫ 第2カンタたすけあい名古屋前	カンテ1・2・6・7	
⑥	B&Dドラッグストア駐車場	アーバンラフレ鳴子第2		⑬ 万場山公園	池上台2-1	
⑦	鳴子高根公園	鳴子町1丁目		⑭ 旭高根公園	万場山1丁目	

【気を付けて!】(風水害編)

- 1. マンホール・側溝
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けなさい。
- 2. アンダーパス・よく冠水・浸水する場所
掘り下げ式の道筋であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場合は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

【気を付けて!】(地震編)

- 1. 空き家
耐震性が低く倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
- 2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
- 3. 狹い道
近くの家の倒壊した時、道がふさがれて通れないくなる可能性がある。
- 4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。
- 5. 瓦屋根
大きな搖れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

【あなたの一時集合場所】

この地図は、名古屋市の承認を得て、名古屋市計画基本図(平成27・28年度)を使用して作成したものです。承認番号 平成30年第56号【禁無断複製】 © 2020 ZENRIN CO., LTD. 作成：緑区鳴子学区 作成支援：緑区役所、緑消防署 発行：2020年3月

緑区

鳴子学区

世帯：3,167 世帯

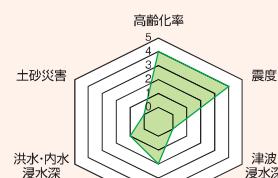
人口：7,088 人 面積：0.730 km²
(令和2年1月1日現在推計人口より)

鳴子学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されております。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	26.8%	4
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100~500棟未満	2
洪水・内水浸水深	0.5m 未満	1
土砂災害	警戒区域なし	0



お住いの地域のことを知つておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高めいざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ 検索

火災から命を守るために「今」できること

● 住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。

火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。



● 住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を發揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくと、いざという時に役立ちます。



● 感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感じると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。

● 隣近所の協力体制をつくる。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって、隣近所で声を掛け合うなど地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。

学区の皆さまへ(ご協力のお願い)

- ◆ 日ごろから、コミュニケーションを大切に、隣近所と顔の見える関係を築きましょう。災害時の助け合いや、犯罪リスクの抑制にもつながります。
- ◆ 建物の耐震、家具の転倒防止など、命を守るための安全対策を進めましょう。
- ◆ 感震ブレーカーや火災警報器の設置など、火災による被害を出さないように備えを進めましょう。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- ◆ まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心活動します。（安否確認、声かけなど）
- ◆ 災害の恐がなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆ 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- ①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る！
- ②一緒に逃げよう 近所への声かけ！
- ③高齢者や障害者などの避難誘導を！
- ④原則徒歩で！（渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない）
- ⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて！

一人では逃げられない方への対応

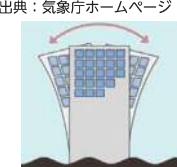
過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなでいち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。



マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

（例）出典：気象庁ホームページ



- 高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。
(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全!」という場所をつくる)

- 配水管が安全確認ができるまでできるだけ水を使わない。
(下階における汚水の逆流防止。簡易トイレ（便袋）などを活用)



- 地域コミュニティとの良好な関係
(日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)